



高品質な歯科口腔外科医療を24時間提供するプロ集団

2024年9月30日 歯科・口腔外科領域

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

こんにちは。横浜労災病院 歯科口腔外科・顎口腔機能再建外科の亀井 和利(かめい かずとし)です。当科は特に制限なく歯科口腔外科疾患全般を広くカバーできるように診療体制を整えており、必要に応じて医科歯科連携を取り日常臨床に取り組んでおります。

一般歯科医院で対応が困難な疾患はもとより、当院の救命救急センターと連携を取って24時間オンコール体制で口腔顎顔面外傷をはじめとした歯科の緊急性疾患にも対応しております。

対応ができない疾患はないと自負しておりますが、今回は周術期口腔ケア、病院歯科における専門的な歯科治療に対する診療体制を紹介させていただきたいと思います。



亀井 和利

歯科口腔外科・歯科・顎口腔機能再建外科 部長

当科の豊富な医師体制

歯科口腔外科・顎口腔機能再建外科 医師体制



歯科口腔外科・歯科・顎口腔機能再建外科部長
亀井 和利
専門分野：口腔外科全般・顎変形症・外傷・顎関節症

学会専門医・認定医
厚生労働省中央防災医員、国際口腔顎顔面外科専門医、日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎変形症学会認定医・指導医、歯科医師臨床研修指導医、東北大学歯学部臨床教授、埼玉医科大学非常勤講師、日本口腔外科学会代議員、日本口腔顎顔面外傷学会理事・評議員、日本顎変形症学会代議員、日本職業・災害医学会労災補償評議員・指導医



歯科口腔外科副部長
高橋 康輔
専門：口腔外科全般・再生医療・顎関節症・顎変形症

学会専門医・認定医
歯学博士、日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔科学会認定医・指導医、日本顎関節症学会専門医、日本歯周病学会認定医、歯科医師臨床研修指導医、日本職業・災害医学会指導医

鈴木 雄祐

専門：歯科口腔外科・歯科・顎口腔機能

学会専門医・認定医
歯学博士、日本口腔外科学会認定医、日本口腔科、学会認定医、歯科医師臨床研修指導医

田島 麻衣

専門：口腔外科全般、骨髄円、高気圧酸素治療

学会専門医・認定医
日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会認定医、歯科医師臨床研修指導医

服部 俊夫

専門：口腔外科全般、矯正治療

学会専門医・認定医
歯学博士、日本口腔外科学会認定医、日本口腔科学会認定医

河崎 大樹

能勢 十詩子

柳楽 俊貴

近藤 壽郎

専門：顎外科・顎関節外科

学会専門医・認定医
歯学博士、日本大学元教授、鶴見大学客員教授、日本口腔外科学会名誉会員、日本口腔外科学会専門医、日本口腔外科学会指導医、日本口腔科学会指導医、日本口腔内科学会専門医・指導医、日本顎関節学会専門医・指導医

小早川 元博

専門：口腔外科全般

学会専門医・認定医
歯学博士、日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎関節学会専門医・指導医

塚原 宏康

専門：再生医療、歯科インプラント

学会専門医・認定医
歯学博士、日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎関節学会認定医・専門医・指導医、顎顔面インプラント指導医

日下 輝雄

専門：歯科保存領域

学会専門医・認定医
経済産業省診療所副所長・副健康支援センター長、北海道大学客員教授、東京医科歯科大学臨床教授、高月病院客員講師、鶴見大学非常勤講師、歯学博士、日本歯科医学会連合大型研究推進委員、日本歯科保存学会専門医・評議員 他

伊藤 耕

専門：口腔外科全般、顎変形症

学会専門医・認定医
歯学博士、埼玉医科大学歯科口腔外科准教授、日本口腔外科学会指導医・専門医、日本口腔科学会指導医・認定医、日本顎関節学会専門医、日本有痛歯科学会認定医・指導医、歯科医師臨床研修指導医

林 美恵

専門：インプラント、補綴治療

学会専門医・認定医
歯科医師臨床研修指導医

枝 卓志

専門：歯科放射線、口腔外科全般

学会専門医・認定医
歯学博士、鶴見大学歯学部口腔顎顔面放射線・画像診断学講座助教、日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会指導医・認定医、日本歯科放射線学会認定医、日本歯科放射線学会歯科用CBCT認定医

周術期口腔ケア BRONJ ARONJ

周術期口腔ケアによる様々な効果

全身麻酔手術、抗がん剤治療、放射線治療を受ける患者さんが治療開始前から専門的な口腔ケアを受けることにより、口腔内細菌が原因となる様々な合併症を予防する事を目的とした口腔ケアが近年では注目されています。

本邦においては平成24年度から周術期口腔ケアが保険診療報酬として認められるようになっていました。

周術期口腔ケアを行うことで様々な合併症が減少することが報告されています。

例えば、肺炎では術後肺炎のリスクが約1/3に改善。手術創部感染のリスクも半減。抗がん剤や放射線治療によって発生する口内炎のリスクも激減というように周術期口腔ケアを行うことで術後の合併症の減少や、入院日数の減少が報告されています。

そのため当院では周術期チームを発足して歯科口腔外科が口腔ケアを担当して合併症の軽減に務めています。

可能であれば中央手術室での全身麻酔を受けるすべての患者さんの口腔ケアを行う事ができれば様々な合併症の抑止につながるのではないかと考えております。

新たな合併症としての顎骨壊死：ビスフォスフォネートおよび抗吸収薬の臨床影響

また、2003年、Marxによって、窒素を含むビスフォスフォネート系薬剤（パミドロネートおよびゾレドロネート）の静脈内投与に伴う新たな合併症として、顎骨が露出した一連の症例を報告されました。この疾患は、ビスフォスフォネート関連顎骨壊死（BRONJ）と名付けられました。

このビスホスフォネートやデノスマブを含む抗吸収薬（Antiresorptive drugs; ARD）は、転移性骨疾患、多発性骨髄腫、骨粗鬆症、およびバジェット病や骨形成不全症などの他の代謝性骨疾患の治療に広く使用されています。これらは、骨吸収を減少させ、それによって骨密度を増加させることで作用することが知られています。

これらの薬剤の投与の既往がある患者さんで、顎顔面領域の骨が露出し、壊死した状態が8週間以上続いている、なおかつ顎の放射線治療の既往がないケースをBRONJと診断しています。

最近ではデノスマブや血管新生阻害剤などの他の薬剤が顎骨壊死と関連していることが明らかになり、薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）と言われるようになっていきます。投与前に口腔ケアを行う事で発症のリスクを抑制できる可能性があります。

病院歯科における歯科治療

広範囲顎骨支持型装置

2012年の歯科保険診療報酬改訂により、これまで先進医療のインプラント義歯として取り扱われてきた治療の一部が、広範囲顎骨支持型装置埋入手術および広範囲顎骨支持型補綴として歯科保険に導入されるようになりました。腫瘍（口腔がんや良性腫瘍）、外傷、顎骨骨髓炎、口唇口蓋裂などの先天性疾患による顎口腔機能欠損患者に対して、摂食・嚥下、構音などの機能障害や顎顔面、口腔の形態的・審美的障害が生じている患者さんには、従来から顎補綴や歯科補綴治療が適応されていますが、難症例が多く、インプラント治療の有用性が示されており、複数の改訂を経て保険導入治療が充実しました。当科においても適応疾患に対応しています。

頭頸部腫瘍に対する医科歯科連携治療

当科では総合病院の歯科として歯科口腔外科を標榜しており、一般歯科開業医では対応困難な疾患に対応するべく日常臨床を行っています。頭頸部悪性腫瘍に対しては、耳鼻咽喉科や形成外科との3科合同手術を行うこともあります。

また、術後経過観察の後に、広範囲顎骨支持型装置埋入手術を用いて顎口機能再建を目指しています。

有病者歯科

人生100年時代と言われるように、日本は超高齢化社会へと進んでいます。来院患者の平均年齢の高齢化もその一端を表しています。年齢だけでなく、先天性疾患を持つ患者さんや、高齢になることで全身的に特定の疾患を有するリスクが高くなります（有病者率の上昇）。患者さんが歯科を受診する際には、総合的な判断が必要とされる場合が多く、全身の病態を把握して安全で適切な歯科治療を行うことが求められます。そのため、総合病院歯科の強みを生かし、院内関連診療科との連携を取りながら、併存する疾患を考慮して歯科治療を安全に行うよう努めています。

例えば、先天性心疾患やペースメーカー留置などの循環器系の既往歴を持つ患者さんに対しては、全身管理下での侵襲的歯科治療を行う場合があります。必要に応じて、循環器科医師同席の下でモニター管理下での歯科治療を行うこともあります。

口腔外科手術

口腔外科において、顎関節と咬み合わせは歯科ならではの治療領域です。当科では特に顎変形症と顎関節症に対する治療に注力しています。上下の顎の骨の問題で不正咬合を呈している場合には、骨切りを行い顔面の骨格バランスや咬合状態を改善させる必要があります。口唇口蓋裂などの先天的な疾患や、思春期の成長発育過程で上下の顎の咬み合わせのバランスが崩れてしまう場合があります。

当科では顎矯正手術を矯正歯科クリニックと連携して治療を行っています。美容外科手術と治療方法は似ていますが、審美的側面だけでなく機能的な問題も改善させることができる治療方法です。若年世代が対象となる治療と思われがちですが、近年では治療を受ける患者さんの年齢が上昇しており、50歳代までの患者さんも増加しています。また、顎変形症と同時に顎関節にも問題があるケースも多く、顎関節の評価を行った上で治療を行う必要があります。当科には、標準的な医療はもとより、内視鏡下手術や顎関節外科に精通した専門医が在籍しており、高度な治療にも対応可能です。

最後に

総合病院の歯科医療は、単なる「病院内の歯医者さん」ではありません。当院では、高度な歯科医療を提供する診療科としての役割を担い、患者様に最先端の治療を提供しています。

当科では、歯科だけでなく医科の先生方との密な連携治療を行い、複雑な症例にも対応しています。例えば、頭頸部腫瘍に対する治療では、耳鼻咽喉科や形成外科との合同手術を実施し、術後の顎口機能再建まで一貫してサポートします。また、有病者の歯科治療においても、全身の病態を把握し、安全で適切な治療を提供するために、院内の関連診療科と協力しています。

私たちは、当院の理念である「みんなでやさしい明るい医療」を推進し、患者様一人ひとりに寄り添った医療を提供していきます。



亀井 和利(かめい かずとし)

歯科口腔外科・歯科・顎口腔機能再建外科 部長

■卒業年次

平成3年

■専門分野

口腔外科全般・顎変形症・外傷・顎関節症

■学会専門医・認定医

厚生労働省中央労災医員

国際口腔顎顔面外科専門医

日本口腔外科学会専門医・指導医

日本顎変形症学会認定医・指導医

歯科医師臨床研修指導医

東北大学歯学部臨床教授

埼玉医科大学非常勤講師

日本口腔外科学会代議員

日本口腔顎顔面外傷学会理事・評議員

日本顎変形症学会代議員

日本職業・災害医学会労災補償評議員・指導医

お問い合わせ先



独立行政法人 労働者健康安全機構 横浜労災病院 地域医療連携室

TEL:045-474-8111 平日 8時15分～17時00分

FAX:045-474-8323

ホームページ:<https://yokohamah.johas.go.jp>